

## 特集を振り返って

今回の特集、いかがでしたか？  
ヨシダ君にとって「家族」というテーマは、思いのほか難題だったようです。そもそも、家族の形は家族の数だけ存在するもの。そして、その時その人の生き方や考え方で、様々な模様が描けるキャンパスのようなものではないでしょうか。

「役割としての相手とつながるだけ  
の関係を解消しよう」と、味沢さんは言われました。

もちろん、役割を求められるとき、またその役割を生きなければならぬこともあるでしょう。しかし、その役割を終えた後どう生きるかを考えるとき、役割以外の自分を持っていること、そしてそれをお互いが認め合う関係を築くことが大切になってくるのではないのでしょうか。

また、味沢さんは「家族の枠組みを考え直してみよう」とも言われました。これは家族の定義を広げてみようということであって、もちろん家族の解体という意味ではありません。例えば、夫婦？人だけの家族だったり、

サークル活動などの仲間家族だったり、職場のビジネス家族だったり。こうすると数え切れないくらいに家族の形ができてきますね。

形にこだわりすぎていたことに疑問を持って、それぞれの家族に少しずつ新しい風が吹くようになるといいですね。

今回いろんな家族に出会ったヨシダ君。でも彼の家族研究は、まだ始まったばかり。今後いろいろな事例を集めながら、研究を進めていこうと張り切っています。

さて、次号ではどんな家族に出会うのでしょうか？

★今回の特集の内容について、皆様からのご意見を募集しています。  
フレンテみえまで郵送、FAX、又はメールでお寄せ下さい。



## 男女共同参画週間を振り返って

平成11年6月23日に「男女共同参画社会基本法」の公布・施行されたことを受け、男女共同参画に対する理解を深め、また地域での気運を醸成することを目的に、6月23日から29日までの1週間が「男女共同参画週間」と位置付けられています。三重県と三重県男女共同参画センター（以下フレンテみえ）でも、6月23日～7月7



日の2週間にわたり、男女共同参画推進のための県の取り組み状況などを中心とした展示を行いました。

フレンテみえのエントランスには、県の男女共同参画基本計画の概要をまとめたパネルを掲示しました。ガーデニング用のラティスを利用した展示に興味を示された方も多く、それまで男女共同参画という言葉にあまりなじみがなかったような方も熱心にパネルを読んでくださる姿が見られました。また、情報コーナーの中では、男女共同参画に関する図書の紹介のほか、婦人参政権運動に関わった女性の中から三重県にゆかりのある方を紹介する展示を行いました。

6月29日にはフレンテみえの登録団体代表者の集いを開催しまし

妻のIT講師に反対のユミさんのお義父さんは、スズキさんと一杯飲むために出かけていきました。



「いやあ、最近、カミさんがIT講師とやらの資格を取って言い出してね。そんなのやり出して家のことはどうするんだって言ったたら、逆にみんなに責められてしまった。まったく参っちゃったよ」



「何で言われたんです？」



「男と女にはそれぞれ役割ってものがあるだろうって言ったたら、そんなの時代遅れだ。息子までカミさんの味方するし、何だか納得いかないんだよなあ」



「ほう。うちはうちで、このあいだ息子のヤツが結婚したら専業主夫をしたいって言い出しましてね。もう心臓が止まりそうでしたよ。それだけはやめてくれ、と頼みましたがね」

「えらい時代になったもんだ」

「まったくですよ」

こうして愚痴交じりの会話を続けている2人。自分たちには考えも及ばなかった生き方を選択しようとしている妻や息子が、まるで宇宙人のように思われたのかもしれない。

